

ある石下光良さんより、「大谷石採掘の歴史、石材としての隆盛、今後の展望」と題して、明治時代より現代まで続く組合の歴史や現在行われている土壌改良や水の浄化、果物の鮮度維持、放射性物質の吸着等の大谷石の様々な研究を紹介。また大谷石が海外有名店のインテリアに利用されている事例なども紹介されました。最後に宇都宮市大谷振興室係長の黒



渋沢栄一生地「中の家」(左)。煉瓦造りの誠之堂

### 大谷石 東西南北

#### 博多でも健在、大谷石

(NPO法人 大谷石研究会広報担当 平沼 隆志)

ここ数年、仕事で年に数回、福岡を訪れる。中心地の博多で気になる店がある。博多祇園山笠で知られる櫛田神社近くの大通りにある焼肉店だ。豪華な外観はひととき目立つ。以前にも昼食を食べようとしたことはあったが、混んでいて断念。今年ようやく足を踏み入れた。

装飾に効果的に大谷石を使っている。入口の両脇の柱、そして床にも敷いているようだ。ソフトで落ち着いたある大谷石の持ち味が店の雰囲気にあっている。正直なところ、九州でも大谷石を見ることができるとは思っていなかった。私が出かけた中では最も西かつ南にある「大谷石」だ。旅先で大谷石を使った店を発見すると、うれしい。その店が、流行っているとのおさらだ。

ちなみに、これまでで最も北(東)で見つけたのは札幌・スキノのパパ風の店。残念ながらこの店は一度、前を通り過ぎただけだ。

博多にある焼肉店「大東園」。入り口と床面に大谷石が使われている

### 城山地区4小学校・1中学校の・教師に社会科副読本「大谷石の魅力」の活用法をレクチャー

平成28年度宇都宮市市民活動助成金交付事業で当専門部会が作成した、小学生高学年を対象とした社会科副読本「大谷石の魅力」。今年度事業として、その副読本を対象の先生方に理解し、指導していただくことを目的に、

11月29日に地元の先生方にお集まりいただき、専門部委員長の和田昇三さん(定利工大教授・当理事)が、「大谷石の魅力」の解説本を作成して解説しました。

講師は和田昇三理事  
副読本は20頁の小冊子で1万部を制作。地元小学校へ配布しました。

城山中学校で地元の先生方に解説しました

NPO法人大谷石研究会のホームページ  
<http://www.ooyaishi.org/>

コンテンツ盛りだくさん

「大谷石百選 自然美・建築美」(第2版 第1刷発行) 絶賛販売中

A4変形版 148頁 2008円

## レトロモダンな街 深谷まち巡り

NPO法人 大谷石研究会  
理事 坂本友見子

6月10日(土)に毎年恒例の会員向けの研修見学会バスツアーがありました。参加者は27名。私が9年前に始めてこのツアーに参加してから、ツアーの内容の濃さや楽しさで、この会のイベントの優先順位1位となり、可能な限り参加しています。天気予報では32度でお隣には暑い街熊谷市もあります。暑さの体験ツアーになるのでは?と恐れておりましたが、晴天で爽やかな1日でした。

スタートは渋沢栄一生地「中の家」。養蚕農家の形態で築120年とは思えないほど立派です。渋沢栄一は「近代日本経済の父」と言われた方ですが、幕末から昭和初期に掛けての活躍は驚くべきレベルです。帰宅してから調べないと日本人として恥ずかしいかも、と思いました。そして、渋沢族の優秀なことー渋沢栄一ゆかりの誠之堂清風亭は、東京から移築復元されています。ここ、深谷市の古い、でも価値が高い建造物の保存に対する姿勢が素晴らしいと絶賛でした。行政によってその対応が雲泥の差です。とても勉強になります。

次は旧煉瓦製造施設。広大なスペースで膨大な数の煉瓦が焼かれていた様子が蘇ります。東京駅の煉瓦もここで焼かれたそうですが、まさしく近代産業の発展に無くてはならない街だった

のですね。深谷商業高校記念館・七ツ梅酒造跡 深谷シネマ 滝澤酒造・小林商店 深谷煉瓦ホール等を散策し、最後は日本聖公会熊谷聖パウロ教会に立ち寄り帰途につきました。

宇都宮は大谷石が基礎や塀、建造物に沢山使われていますが深谷市はそれが煉瓦なのですね。



#### 《参加者の感想》

◇大谷地区の歴史についてはある程度知っていたが、本日はそれぞれの専門の立場から興味深い話を聞くことができた。観光客増加の現状を踏まえて、今後の大谷の展望を考える事の重要性が理解できた。

◇身近に存在する大谷石産業としてだけでなく、文化的にも紹介し宇都宮の良さの一つとして自慢できるようになると良いと思う(大谷ニューストーンの存在を初めて知った)。価値ある建物を守る努力も必要だと思う。

◇本日の研修を生かして、自分でも見学して歩きたいと思う。



シンポジウムに多くの声がある石下光良さんより、「大谷石採掘の歴史、石材としての隆盛、今後の展望」と題して、明治時代より現代まで続く組合の歴史や現在行われている土壌改良や水の浄化、果物の鮮度維持、放射性物質の吸着等の大谷石の様々な研究を紹介。また大谷石が海外有名店のインテリアに利用されている事例なども紹介されました。最後に宇都宮市大谷振興室係長の黒

### エクスカーションのバスツアーBコースに22名が参加

このシンポジウムが「日本遺産」認定取得の後押しになればと期待をしています。シンポジウム終了後に行われた交流会も、関係者や熱心な参加者により時間をオーバーして大谷石について語られていました。

なおり19日に行われたエクスカーションは、市民向けAコースと主に県外の方向けBコースを設定。特にBコースは建造物に詳しい方も多く、屏風岩で当主の渡辺さんから特別に蔵の中も許され興味深く見学していました。その後、大谷資料館の地下空間、露天掘りの採石場、大谷石蔵の町並み、教会など、好天のうちに終了いたしました。

